

中学校における武道必修化と その問題点

S58 化工卒 勝野 晴孝



はじめに

- ◆ 自己紹介(特に、剣道との関わり)

1960年3月生まれ、現在50歳

1968年 近所の道場で剣道を始める(小3)

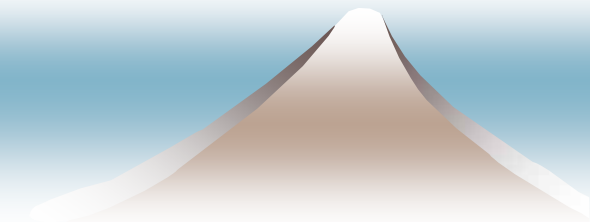
以降、中学～大学まで剣道部所属

1983年 日清紡入社、剣道を中断

1998年 息子と一緒に剣道再開(38歳)

現在 養正会(難波、大阪府立体育会館)

にて稽古中、五段



武道必修化の目的

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動です。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動です。

文部科学省 ホームページより

到達目標

【中学1年～2年】

剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。

【中学3年】

剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。

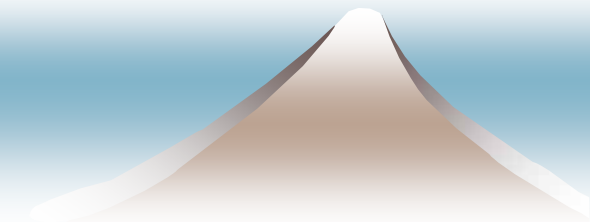
疑問点(その1)

◆ 授業時間は？

- ・保健体育の授業時間 105時限/年
- ・実技 79時限/年(残り保健分野 16 等)
- ・武道実技は1/6(13時限程度)

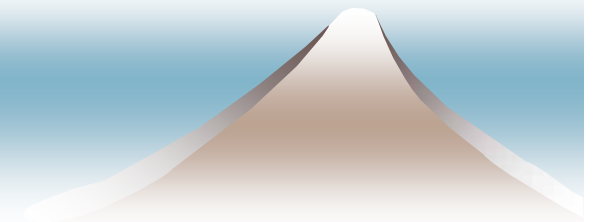
◆ 指導者は？

- ・剣道経験者の教師はどの程度？
- ・外部講師の活用？



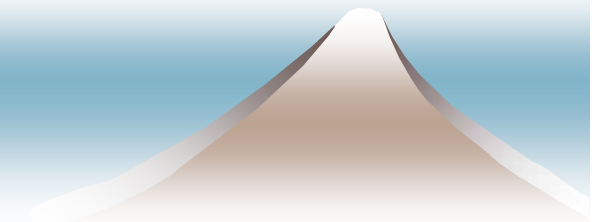
疑問点(その2)

- ◆ 剣道の授業で武道の伝統的な考え方を理解できるの？
 - ・ 『武道の伝統的な考え方』とは？
 - ・ 剣道のスポーツ化
 - ・ 剣『道』は修行
 - ・ 楽しい授業との両立は可能？



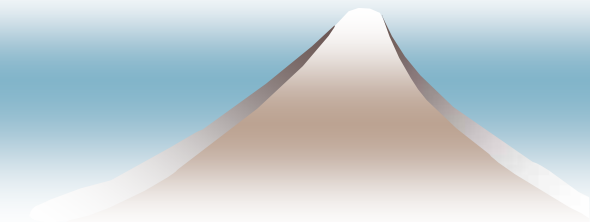
では、どうする？(私案)

- ◆ 木刀による基本稽古法の活用
 - ・1年次は防具を付けず、『木刀による基本稽古法』を徹底的に身に付ける。
 - ・技の習得より、礼法の習得に主眼を置く。
- ◆ 防具を付けた稽古は2学年以降に
 - ・防具を付けてから、竹刀で『木刀による基本稽古法』を復習する。
 - ・試合稽古は2年次後半から



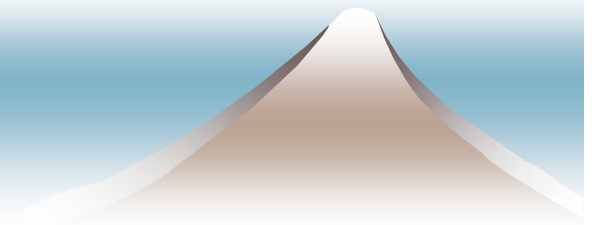
形稽古の効用

1. 木刀を使用するため、“武道”としての剣道を意識させやすい。
2. 礼法が重視されているため、相手を尊重する精神が涵養されやすい。
3. 防具をつけないため動きに制限が少なく、正確な動作を身に付けることができる。
4. 『木刀による基本稽古法』は、竹刀剣道への移行が容易
(すぐに使える技を覚えられる)



最後に

- ◆ 剣道人口の増加を期待
- ◆ “痛い、くさい、ダサい”という意識だけの授業にしないように
- ◆ 剣道愛好家として、協力体制を構築したい



最後に

ご清聴、ありがとうございました。

